

# 令和8年度 向島藤の木小学校 学校経営ビジョン

## 【学校教育目標】

「未来をみつめ、たくましく生き抜くために、学び続ける子どもの育成」

～ みんなが主役、みんなで作る、楽しい学校 ～

## 【目指す子ども像】

「粘り強く、チャレンジする子」 「楽しく学び、成長する子」 「自分も人も大切にする子」

## 【目指す教職員像】

「愛情をもって子どもと向き合い、親身になって家庭と関わる教職員」

「同僚と尊重し合い、協働し、楽しく働く教職員」 「本校教職員であることに誇りをもって働く教職員」

## 【目指す学校像】

「すべての子どもが、多様性の中、互いを認め合い、安全に安心して過ごせる学校」

「すべての子どもが、楽しく学び、成長し、生き抜く力を手にする学校」

「子ども・家庭・地域から信頼され、地域を元気にできる学校」

## ビジョンを実現するための方策「京都市学校教育の重点」全教職員で進める学校園づくり5つの柱

### ☆「いのち」～子どもの命を守りきる～

- 全教職員がすべての子どもの命と人権を守りきる覚悟をもち、「安心・安全」を保障した中で、日々の教育活動を進める。
- 子ども達が安全に安心して過ごせる、学びやすく、整然とした学習環境づくりを進め、日常の気付きを通じた危険の早期発見に努め、事故の発生を未然に防ぎ、子どもの命を守りきる。事故やトラブルが発生した時は、組織で、早急に、誠意をもって対応を進める。
- 地域や家庭の厳しい実態を理解し、子どもの内面から発せられる様々な表情に目を向け、声に耳を傾け、子ども達を徹底的に大事にした、児童理解を全教職員で進め、気になることがある時は、積極的に情報共有を進める。
- 給食や食に関する指導を通して、心身の健康を支える、食育の充実を図るとともに、睡眠に関する保健指導や保護者への啓発を通して、生活習慣の向上を図る。
- 子ども一人一人が、深い自己理解に基づき、「何をしたいのか」、「何をすべきか」主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、目標達成のために、自発的、自律的、かつ他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を判断し、実行する力、「自己指導能力」の獲得を、日々の教育活動の中で目指す。

### ☆「よりそい」～多様な子どもが誰一人取り残されない教育を進める～

- 総合育成支援教育の視点や生育歴・家庭環境など、徹底した児童理解の中で、気になる子ども・家庭については、ケース会議・戦略会議を定期的・継続的に実施し、情報共有を進め、誰一人取り残さない。子どもや保護者の思いに寄り添いながら、福祉・医療的な視点など様々な視点で、戦略的に対応を考え、必要であれば、児童相談所や子どもはぐくみ室等との連携を積極的に進めていく。また、外国にルーツがある児童が多いこともふまえて、日本語指導の充実を図るとともに、多様性を認め合い、違いを豊かさにつなげる人権教育を進める。
- チーム担任制・ユニット制の良さを最大限に活かし、全ての教職員で子ども達に寄り添い、個別最適な学びを進めていく。一人一人が「今ある力」で安心して、主体的に参加し、楽しく学べる授業、分からないことを言い合える学習集団作りを進め、少しずつでも確実に力を伸ばせる教育活動を行う。

○厳しい家庭環境、幼児期の体験不足等により、課題を背負わされている子ども達が多いことを踏まえ、「自立活動」の視点を取り入れ、非認知能力を鍛える、「コグトレ」、「SEL」、「ビジョントレーニング」など、本校の実態からスタートしている取組を、発達段階に応じて、「朝の時間」や「FCT(藤の木チャレンジタイム)」に実施し、楽しみながら、学習や生活の土台となる力を確実に身に付けるようにする。

\*「教育課程柔軟化サキドリ研究校」(文部科学省指定)の事業を通して、教育課程・取組の整理、改善を進める。

○少人数の強みを活かした、たてわりグループでの活動や特別活動を主体的に、対話的に進め、「自分が誰かの役に立っている」という「自己有用感」を育てるとともに、「自分たちの学校は自分たちで作る」という、主体性・当事者意識を高める。子ども達のチャレンジや失敗を教職員みんなで温かく見守り、励まし、粘り強さを育てる。

### ☆「つとめ」～教職員の職責を自覚し、研鑽することで、教育の質を高める～

○全教職員が、教育が果たすべき崇高な使命を担う者として、向島藤の木小学校の教職員であることに誇りをもって働けるようにしたい。「教職員の言動そのものが教育である」という認識のもと、愛情をもって子ども達と向き合い、「自己肯定感」が高まるよう、たくさん褒め、どんな時子ども達の可能性を信じ切ることができる教職員集団を目指す。

○厳しい社会情勢の中、懸命に子育てをしている保護者、家庭に対してリスペクトの気持ちを忘れず、家庭の社会的な自立を目指しながら、子どもを真ん中において、親身になって関わり、信頼関係を築く。

○教職員がお互いをリスペクトし合い、支え合える心理的安全性の高い職場、「働きやすさ」と「働きがい」を両立できる環境を全教職員で目指す。学校施設時間を早め、時間外勤務を減らし、全教職員のウェルビーイングを目指す。

○子どもたちの学びと教職員の学びは、「相似形」と考える。子ども達が目指す、「主体的・対話的で深い学び」を教職員もできるように、教職員の思いを大切に、教職員が自律的、継続的、探究的に学び、成長できるようにする。

### ☆「ひろがり」～カリキュラム・マネジメントの視点をもって社会に開かれた教育課程を実現する～

○社会経済的な環境が厳しく、「体験格差」で不利益を被ってしまっている本校の子ども達。学校行事や出前授業など出来るだけ多くの体験活動の機会を確保し、豊かな教育環境の中で、子どもたちの世界を広げたい。子ども達が、たくさんの「好き」に出会い、「好き」を「学び」につなげ、楽しく成長できる教育活動を展開する。

○「社会に開かれた教育課程」を確かなものにし、全ての教職員が地域社会とのつながりを意識した幅広い視点からの教育活動を推進する。向島地域にある農園や企業、京都文教大学等との連携を進める。地域の人々と関わりながら、学習を進めることで、地域との信頼関係を深め、少子高齢化が進む向島東地域に子どもたちの元気を広げたい。

○メディアセンターの活用、読書活動の促進を図ることで、学習の基盤となる言語能力を培い、新たな知見、価値と出合う機会を創出し、社会への関心を広げる。

○目の前の子どもの姿は勿論、学校評価アンケート・全国学力学習状況調査・ジョイントプログラム等、取組の進捗度・達成度を振り返り、戦略的に考えるシステム・体制づくりを進める。

### ☆「つながり」～校種間連携・接続により子どもを支える～

○城南保育園・城南第2保育園から多くの子どもが入学するという強みを活かし、両園と連携し相互理解を深め、円滑な接続を図り、架け橋プログラムを推進するとともに、幼稚園・児童館等のとも積極的につながり、教育活動を進める。

○向島東中学校区において、小中一貫教育校創設協議会が発足され、新しい学校作り(令和14年度開校予定)が進んでいる。「向島東ブロック学校創造プロジェクト」を通して、向島小学校・向島東中学校と義務教育9年間の系統性、学びの連続性を確保した連携を進める。向島東中の今年度のテーマ「対話力と探究心」についてのつながりも検討していく。

○学校での学びと社会や自分の将来とのつながりが見通せるような教育活動の充実を図る。たくさんの「好き」を育み、「得意」を伸ばすことで、自己肯定感を高め、自分らしい生き方を探究し、様々な社会的変化を乗り越えていくための土台となる「生きる力」を育む。